

五島巡礼



五島巡礼から4か月たって振り返り、私にとって五島巡礼とはなんだったのか。ホームページに載せていただくのは初めてのことで、読んでいただけるものになるか不安ではありますが、五島の巡礼から頂いた恵みを皆様に分かち合うことができれば幸いです。



私たち修練院は、5月23日～26日にかけて、「聖母月にディアス神父様と行く、とっておきの五島列島巡礼」に参加させていただきました。五島は長崎県の島で、五島自体もいくつかの島でできています。その中でも、私たちが行ったのは、五島市の福江島と久賀島、新上五島町の若松島と中通島、野崎島です。カトリックの教会を巡礼し、殉教地を肌で感じ祈りながら巡った旅でした。

ディアス神父は4月に志願者のための研修に来てくださり、初対面でしたが、五島巡礼について熱く語られ五島行きを勧められました。この時期、教会は復活節中でした。私は修道会に入会し、喜んでこの生活を送っていて、喜びは日に日に増していました。自分自身の召命と、共に歩む仲間の召命を願い、自分に与えられているものに気づかせていただくため聖霊来てくださいと祈っていました。3月に総長様が来日されたとき、自分の仲間を作るようにと仰り、私も総長様にお約束しました。聖霊降臨の週の朝ミサの中でのお説教で「喜びは聖霊に満たされていることなのです」と聞いたとき、私の喜びは聖霊からくるものであり、聖霊は私が願う前から来てくださっていたことに気づかされました。私は、この喜びを伝えたい！イエス様を伝えたい！教会を知らせたい！聖心のウルスラ宣教女修道会を知らせたいと思いました。そして、どうすれば修道召命を望む人を増やせるのかと一生懸命考えました。ひらめいたのは、五島巡礼に聖心のウルスラ宣教女修道会のパンフレットをもって行き、折りがあろうとなかろうと、機会があれば声をかけたいと思いました。その日から五島巡礼は私にとって、召命のための巡礼という目的に変わりました。巡礼のお話を聞いた当初は気が進まなかった私の心を、イエス様はこのように変えられました。それからは五島巡礼が待ち遠しくなりました。私に力はありませんが、「ハチドリの一とせずく」のように少しずつどこかで誰かに届けばいいなと思いました。



巡礼は下五島から始まりました。五島の教会で私にとって、印象に残り好きな教会は水ノ浦教会でした。海の青さと白い教会が高台にそびえ建っているのです。素晴らしいと思いました。五島ほど教会が密集しているところはないでしょう。信徒は貧しくても教会はどこもりっぱなのです。五島は豊かで祈りの島、信仰を育む島だと思います。私は上五島に何度も行きましたが、

教会やステンドグラスに目を奪われ、殉教地であることを理解していませんでした。

巡礼の参加者は、日本各地から来られ、一人の洗礼志願者を除いては皆信徒の方でした。初めは、バラバラのように見えた参加者も、バスの中、教会を巡りながら祈り、ミサを共にし、一緒に食事をしていくうちに一つのまとまったグループになり、一人一人の五島巡礼への思い、祈りがあることを知り、共に参加できたことを感謝いたしました。

ディアス神父の旅の一番の目的は久賀島の牢屋の窄殉教地に行くことでした。ここは、200 人もの男女が 12 畳の部屋に 8 か月も閉じ込められ、多くの特に幼児が何人も亡くなったところでした。その子供たちを弔う目的で作られたのが旧五輪教会堂であり、祈りこまれた教会であると説明を受けました。



教会を訪問すると、どこでもマリア様のご像の前にはきれいなお花が飾られていました。聖堂は人々の祈りの場でした。しかし、それだけではない何か深いものを感じました。それが「証し」でした。

長崎から追われて五島に来た宣教師がイエス様を知らせるために信者と共に教会を作りました。それは宣教師の証しでした。そして、キリシタンは迫害をのがれるため、外海より五島に移住し、五島に渡ったら安心だと思っていた

多くのキリスト信者は、拷問にあい、中には殺され殉教しました。五島崩れという激しいキリシタン弾圧があり、想像を



絶するような拷問が行われながらも、キリスト信者は決して信仰を捨てなかったのです。それはなぜか。それは、イエス様の愛に希望を持ち、イエス様を心の底から信頼していたのだと思いました。青い海と緑の山に囲まれた中に教会があり、教会の上には十字架があります。拷問にあつて苦しい時も、この十字架は信徒にとって希望であり救いだったのではないのでしょうか。十字架をみあげれば、イエス様が私の代わりに十字架にかかってくさっている。だから私達も救われ、復活という希望と永遠の命をいただけるという確信が人々の心を支え、主イエスについていきたいという思いだったのではないのでしょうか。それが殉教という証だったのです。

それでは、私は五島巡礼を通して何を証しするのかと自分に問いかけました。私は生まれて12日目に洗礼を受けました。カトリックの家に生まれ、家族の愛の中で育ち、神様とともに生きてきました。私は最も苦しい時、イエス様から救われ、イエス様がどんな時も私を愛して大切にしてくださっていると体験しました。イエス様の愛は私を喜びで満たしてくださいました。私の喜びは誰からも奪い取られない、いつも湧き出ています。その喜びを私は伝えていきたいのです。喜びは御父と御子と聖霊の三位一体の神から来ています。この喜びは、主の受難、十字架の死、復活を通してこられたイエス様が私の中で生きて下さっていて、それを証ししていくということなのです。

この気づきは、私からのものではなく、ご聖体の前で祈っているときに気づかせていただいたものです。聖心^{みこころ}のウルスラ宣教女修道会では、聖心^{みこころ}のイエス様を大事にしています。月の初めの金曜日、その前後は、聖体礼拝があり、ご聖体の前で祈る習慣があります。ご聖体の前で祈っていると、神様は私のこころに気づきを与えて下さいます。私はご聖体の前で祈ることが好きです。そこで主イエスに出会い、私の心の奥に語りかけられる主の声に気づくことが出来るからです。

五島での巡礼によって、多くのことを学びました。迫害を逃れても、何とか信仰を守り伝えてきてくださったクリシタンの思いを受け継ぎ、現代の私たちも伝えていかなければいけないと思いました。この学びを生かしていくことが出来るように毎日、主イエスに祈り、主イエスの呼びかけに、お応えしていきたいと思っています。

巡礼の帰り際に、メンバーから「修道院に行ってもいい?」「誓願式にはいくからね」と、少々気の早い言葉も頂き、笑顔で別れました。五島巡礼という素晴らしい機会をいただいたことを、主と修道会と皆様に感謝いたします。

ありがとうございました。

カテリーナ・マリア水田由美子（志願者）

